

日本国民の全てが理解不能と思われる WTO の最終判断が示された。幾つかの所見を述べたい。

○ 驚天動地のニュース

韓国による福島など 8 県産の水産物の輸入禁止は不当として日本が提訴していた問題で、世界貿易機関 (WTO) は 4 月 11 日、韓国の措置を妥当とする最終判決を下した。一審で敗れた韓国は東京電力福島第 1 原子力発電所事故の処理が終わらない日本の「特別な状況」を強く訴え、上級委員会で判断を逆転させたとされる。

1 事実上の逆転敗訴

官房長官は敗訴ではないと強弁したが、どう見ても敗訴だ。強弁するところからは反省は生まれない。一審が覆る筈がないとの思い込みがあったのだろう。

2 韓国ですら、勝訴が驚きをもって受け止められている位、今回の最終判決は理解不能その理由が素人には全く分からない。理解不能、釈然としない。

3 韓国は一審敗訴を受けて、外部弁護士を含む 8 省庁横断的な「紛争対策チーム」を立ち上げて、戦略を練ったという。これが奏功したのかどうかは定かではないが、一方、日本側は、安心しきって特段の手を打った形跡はないようだ。正に油断だ。

4 日本敗訴に至った理由がどうも判然としない。報道によれば、1 審の判断について、韓国の判断を踏まえた議論が不十分として、進め方に問題があったという。常識的に考えれば、1 審の審理手続きや議論が不十分というならば、やり直しを命ずるか、2 審で行えば良いのではないのか？その何れをもやらずして最終判断とは可笑しい。

5 科学的安全性については、1 審判決を維持しているとされる。科学的に安全であるならば、日本産食品を不当・恣意的に制限することは極めて問題ある行動というべきで、WTO の理念に反する。

6 未だに 23 ヶ国が日本食品の輸入規制を行っている。今回の判断で、規制解除は進展しないのではないかと危惧される。更なる風評被害が予想される。如何なる手を打つのか？外務省、農水省よ、奮闘せよ！

7 今回の敗訴を WTO の限界と受け止める向きもあるが、その前に日本自身の努力の足りなさを再認識した方が良いのではないのか？ 各種国際会議における日本の地位低下が懸念される。捕鯨委員会においても同様だ。国際機関で活躍する人材の育成、増員が喫緊の課題ではないのか？

8 危機管理上も問題だ。1 審判決維持との思い込みが油断を生じ、情報収集も必要な手を講じることもなかったのだろう。最悪の事態を生じさせないように万全の手を打つべきなのだ。